

# 桐生新町講演会

# 幕末の桐生新町

桐生春まつり  
桐生新町町立て祭 四二四年事業

入場  
無料

平成27年

3/28(土)

14:00~

場所: 桐生市有鄰館(煉瓦蔵)

同会場にて  
桐生新町歴史展も開催中

3月26日(木)~29日(日)

10:00~16:00

講師

関口 芙沙恵氏

朗読 岡野 紀子氏

## 「<sup>は</sup>り 玻璃の橋」 あらすじ

幕末、横浜が開港されると、国内の生糸はみな高値で売れる横浜へ流れてしまう。このため高級絹織物の産地桐生は原料不足に陥り、町から機の音が消えた。職人たちは暮らしを脅かされ、冬の到来と共に打ちこわしの危険が高まっていく。

絹買継商、間藤商店は経営の悪化に苦しんでいた。五代目襲名を控える跡取りの真太郎は立て直しのため奔走するが失敗し、店は倒産の危機に立たされる。真太郎の妹、蘇芳は仙水織物の若旦那、由之助との縁談も破れ、兄の出奔などにより先の見えない状況に追い込まれる。佐羽商店の手代霜次郎は、そんな蘇芳を支えるのだが…。各々苦しい立場に立たされた人々は立ち上がり、やがて再生への道を辿り始める。

小説「<sup>は</sup>り 玻璃の橋」で描かれる幕末の桐生新町。何が起き、人々はどう生きたか。作家の目を通して語られる当時の桐生の姿と、そこから生まれた物語。



講師 関口 芙沙恵氏

平成2年、サントリー・ミス터리大賞読者賞を受賞して作家デビュー。主な著書に「蜂の殺意」(文藝春秋刊)、「悪業の筐」(二時間七分の身代金)「修羅の川」(光文社刊)など。伊勢崎市境島村出身。



朗読 岡野 紀子氏

FMきりゅう「大内栄の街暮らしのすすめ」パーソナリティー。桐生市在住。

